

駅ナカ親水公園



コンセプト:【駅×川】の相互作用

日本の鉄道網の発達には世界でも先駆的であるが、その密集性から、殺風景な駅が多く、地域の特性が把握できる風景を持つ駅は少ない。関東地方には、河川沿いに107駅の駅があるが、この中で駅舎またはプラットフォームから河川の風景が見渡せる駅はわずかである。そこで、本プロジェクトでは、駅×川の相互作用をコンセプトとし、『交流の場である駅ナカ公園』『交通の拠点となる駅』『憩いを与える川』を提案する。

「駅」「川」の土木施設が相互に絡み合い、住民と観光客にとって地域の特性を反映したまちづくりに取り組む。

埼玉県幸手市の概要

幸手市は、埼玉県北東部の平地に位置する人口約5万人のベッドタウンである。江戸時代には、日光街道・奥州街道、そして日光御成道の宿場町として栄えた。近年では、市の西側に東武日光線と国道4号が縦断し、幸手駅とその東側の旧日光街道を中心に、市街地が広がる。駅の北部には桜の名所として名高い権現堂があり、桜の季節には多くの観光客で賑わう。

幸手駅の概要

昭和4年4月1日、幸手市西部に東武日光線の間駅として開業し、平成15年に東京メトロ半蔵門線、平成25年に日比谷線の相互乗入れが開始した。近年の乗降人数は約1万5千人/日である。幸手駅は、駅とホームと平行して倉松川流れるという地理的特性があり、この真倉松川沿い桜は市民の心の憩いの場である。本プロジェクトは、幸手市が平成18年から駅舎の橋上化や西口駅前の整備計画に着手し、現在、事業計画の段階である事業計画についての提案である。



コンセプト

幸手駅は、倉松川が並行するという特徴を活かし、川沿いの風景計画を行う。具体的には、駅のプラットフォームからの風景をデザインし、通勤客が日常的に幸手市の自然を感じられる空間を提案する。現在、西口は空き地であるため、ここに、ロータリー、調整池、駅前広場を同時に計画し、市民の憩いの場を提供する。

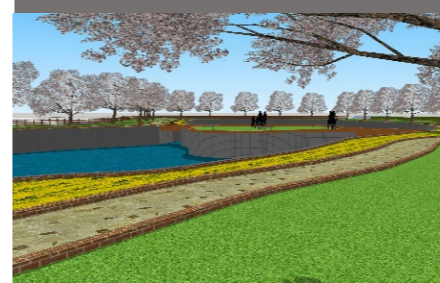


桜並木



駅のロータリーに続く道に桜並木を配置し、市の玄関口としての印象を際立たせる。

調整池



防災のための調整池を設け、通常は水辺の空間として活用する。周囲には市の象徴である桜を中心に、菜の花・彼岸花・水仙などの四季植物の植栽により、駅を訪れた人に癒しを与えるような空間を演出する。

駅ナカデッキ



ホームの南端にデッキを設け、L字形に曲折する川の流れを眺められる空間を創出する。駅ナカでありながら川に近づけることで、安らぎを感じる機会を設ける。

